

相模人形芝居

下中座だより

令和六年新緑号
第六巻

人形の横顔

伽羅先代萩く政岡忠義の段より

床山研修会りポート

公演りポートく小竹公演

相模人形芝居大会

座員紹介く数珠つなぎ

下中座紹介

催し物のお知らせく曾我の傘焼きまつり公演

小竹の歳時記

座員募集のお知らせ 編集後記

表紙写真

小田原城東堀にある菖蒲園。5月下旬から約1万株の花菖蒲が咲き始め、同じ頃その周辺で見頃を迎える約2,500本の紫陽花とともに、小田原城二帯を桜に続いて春の優しい色に染めます。これも、小田原の春の風物詩の一つです。

人形の横顔

伽羅先代萩
政岡忠義の段より



【八汐の巻】

カシラ分類…岩藤
塗り…玉子
機構…無し
うなずき…小猿式
髪型…片外し

衣装…金茶縮緬着付け

黒緋子
龍刺繡打掛

【政岡の巻】

カシラ分類…老女形
塗り…白
機構…眼り目
うなずき…小猿式
髪型…片外し

衣装…赤縮緬着付け

紫緋子
笹の葉模様打掛



文・林美穂子 座長

伊達騒動をテーマにした『伽羅先代萩』で、政岡は幼い主君を守る忠義な乳母。八汐はお家乗っ取りを企み、主君の毒殺を謀る悪臣として描かれています。

カシラや衣裳にもその個性が表れています。

八汐の打掛は、相模人形芝居では「黒地に龍が虎が、負けて鯉の滝登りを刺繍する」と言い伝えられていました。下中座の古い打掛も、八汐は龍の刺繡が施されていました。

対する政岡の打掛は、紫の地に伊達家の家紋の「笹に雀」にちなんで笹の葉が配られています。これも古い衣装を再現させました。八汐の退場の場面では、打掛の背をしっかりと見せる演出がなされています。

ご注目下さい。

床山研修会 レポート



今回、床山研修で、指導くださったついで高橋晃子さんにインタビューさせていただきました。

もともと日本髪や日本の服がお好きで、幼少期より東映や大映の時代劇を追っかけていたという高橋さん。中高生の頃から歌舞伎、文楽は大学生になった頃に知り、芝居が好きになると同じくらいに、紙人形などを作ることもハマっていったとのこと。

本格的に床山の世界に入られたのは30歳になってから。それ以前は会社勤めをされていたそうですが、30歳になった5月に床山の先生を尋ねるも門前払い。その後、通い詰めたけれど、本気であることが伝わらないと頻りに足を運び、夏には「掃除機代わり」と先輩が間を取り持ってくれたことでまず楽屋への出入りを、9月にはアルバイトとして入れることに。そのような高橋さんが大切にされていることは、「楽しむこと」「面白がること」だと。仕事のうち、大半は苦勞するけれど、全部が全部そうではなく、全体を10として1を楽しい(面白がるポイント)ため

に、8〜9は苦勞するということ。そうした楽しめるポイントや、楽しみを探ることを忘れずにいるそうです。

最後に下中座の印象をうかがいました。「元氣」「楽しんでる」という印象。皆がやる気を持って積極的に取り組んでいて、こちらもパワーをもらっている。『そうです。元氣が一番の下中座ですからね!!』

床山研修はまだまだ続きます!! 技術をもっともっと高めていきたいですね。

取材・鶴貝壮啓 文・倉橋知温



研修生の講習レポート

◎渡邊千紗

普段完成形の姿しか見ていなかったのを髪を結上げる過程を知れてとても良かったし、楽しかったです。意外と体全体で口等を使って作業するので想像していたのとは全然違い、男女でもやり方が違うのに全部出来る先生の技量はさすがにすごい!! 努力すごい!! と思いました。

◎長嶋緑

一緒に研修に参加していた仲間の記憶力がすごくて、それがなにより助けになりました。また仲間の普段見れない才能があったり、姿を見られたのも良かったです。なにより楽しいし、先生がとても優しくかったです。髪結いがキレイにできるとお人形への愛着も増すので、更にキレイに出来るようになりたいと思っています。

◎齊藤秀子

正直とても難しかったです。しかし、周りのみんなが一生懸命に練習していたから、つられて自分も練習を頑張れました。「出来ないとかやしい!!」と言う思いもありました。先生の「頑張ってください触れれば出来る様になるからたくさんやりなさい」と言う言葉でより頑張れました。

◎金窓恵

人形の髪の構造がわかってとても面白く、髪の毛で人形の個性を表すことができるのはとても興味深かったです。また仲間と切磋琢磨しながら練習できたことも良かったです。金藤次(総掛き)が出来る様になると大抵の髪結いが出来る様になるので、そこは今後の目標です。

公演 レポート 第6巻

一月二十八日 小竹公民館

小竹公演

百花の先駆けの梅の花が咲き、あたりに良い香りを漂わせている季節に四年ぶりの小竹公演が後援会主催で開催されました。

今日を楽しみにして下さっていた地域の方々が大勢お越しください、公民館の二階はうれしさに満席です。皆様のご期待に応えられるよう座員一同身が引き締まる思いで演じました。

大きな舞台とは違い人形の息づかいも聞こえてきそうな距離でのご観覧

入江敦子太夫、竹本土佐子師匠の三味線

お二人の熱演にきつとご満足いただけたのではないかと思います。私達座員は、十年ぶりの再演であるこの演目に昨年四月から一年近くかけて練習を重ねてきました。三人遣いの難しさ、息の合わせ方、感情の表現、何度も話し合い納得が



二月二十三日 第51回 相模人形芝居大会公演

県立青少年センターの紅葉坂ホールで相模人形芝居大会が行われました。

前日に大道具の積み込みを後援会の皆様や一部座員により行われ、当日は朝9時から舞台準備がスムーズに始まりました。舞台が完成したら各座のリハーサルが始まります。

リハーサルは7分間と短時間の中で、舞台での人形や後見の立ち位置や動きの調整を行い、12時開会となりました。下中座の出番までは、他の座を観たり、談話やお菓子を食べたりして各自リラックス。そして、下中座の番に。

本番は生の義太夫節、稽古の時とは違い、物語への臨場感が強くなります。また、お客様が各人形に注視されていることも感じ取れ、相乗的に人形への気持ちも深く入ります。あつという間に終演、本年度の公演の締めくくりとして満足いくものが出来ました。

ご来場くださったお客様が楽しんで頂けたことを願います。来年度も楽しんで頂けるように、メリハリを持って邁進していききたいと思います！

文・早野航

座員 数珠つなぎ 座員紹介



松本日菜子さんが紹介する人は

斉藤秀子さん



◀下中座 期待の大型新人 斉藤さん

◀地元で学校の指導、髪結い研修など、意欲的に取り組む姿はさすがです。

斉藤さんが、人形芝居の興味を持ったきっかけは、かつて見たテレビ番組でした。その番組では文楽の人形遣いが、ギリシャの神殿の前で人形を遣っており、その和洋の入り混じった不思議な光景が強く印象に残りました。

その後、斉藤さんご主人が小田原市の開催したイベントで下中座を知り、その紹介を受けたことが、下中座と斉藤さんの出会いでした。斉藤さんは、当初、裏方として何か自分が手伝えることはないだろうかと思つて下中座の門を叩きましたが、いざ入座してみると、すぐに人形を遣うことになり、大変驚いたとのことでした。

はじめは、座員が遣う人形の動きに感動し、自分がこんな風になれるだろうかかと不安になったこともあったようですが、現在は人形を遣うことの難しさを知った上で、見るだけの時よりもずっと好きになっていっていると話しています。また、年代や職業関係なく、人形に取り組みめる下中座がとても楽しいと感じているようです。

今後は、女形の左遣いを経験し、ゆくゆくは主遣いに挑戦したいと考えています。世話物の演目で、登場人物の「色気」をうまく表現したいと話していました。

相模人形芝居下中座について

小田原市小竹地区に江戸時代から小竹の芝居として親しまれてきた、三人遣いの人形芝居の一座です。国の重要無形民俗文化財に指定されています。

現在の座員は各地から集まり、年齢層は二十歳から九十代と幅広く、男女もほぼ半々。学校や職種もさまざまな集団で、練習はまじめに集中する一方、ミーティングは和気あいあいとしていて、めりはりのある魅力的な集まりです。

稽古は、原則として月三回土曜日、夏は涼しいこゆるぎセンターで、それ以外は小竹公民館で行っています。

自慢は美しい人形たち。古典の継承を大切にし、加えて新作の上演も積極的に行っています。また、後継者育成にも力を



入れ、地元の小、中、高校のクラブで指導し、そこから座員になっている人も少なくありません。小学校などへの体験学習にも出かけています。一つの芝居をみんなで作り上げる楽しさを味わいながら、皆さんにより素敵な芝居をお届けできるように、これからも励んでいきます。



文・早野里美

座員募集のお知らせ

個性豊かで気持ちの良い仲間と共に1つの舞台を作り上げていく楽しさを、あなたも味わってみませんか？何の制限もありません。思い立ったら是非下記までご連絡を！お待ちしております。また、公演やワークショップなどのご依頼も承っています。

連絡先メールアドレス：
newsletter@shimonaka-za.jp



春

小竹の歳時記

桜の花もぎ

文・岸敏江

温暖化の影響か、中村川堤防の桜は三月下旬には満開になることが多くなりました。

ソメイヨシノに遅れて八重桜が開花します。一昔前は、四月二十日以降に咲くことが多かったのですが、最近では四月上旬に咲き出します。そうなる、桜の塩漬けにするための八重桜の花もぎが始まります。七、八分咲きの花を一つ二つ手で摘んで、かごに入れます。桜の枝はよくしなるので、高いところは枝を引つ張つてもいいいきます。

摘んだ花は、その日のうちに前川の漬物工場に運びます。夕方、花を持ち込んだところで、小竹の農家さんと顔を合わせることもしばしばです。

雨でぬれた花は出荷できないので、その時期は農家も工場の人も天気予報や空模様とにらめっこ。初出荷から約十日前後、桜の花もぎはあつという間に終わります。



「大人の遠足」で湯河原を散策した際の一コマ

第65回曾我の傘焼きまつりのご案内

日時：令和6年5月11日(土)

会場：下曾我梅の里センター
ふれあいの郷

入場料：無料

内容：児童劇、人形浄瑠璃
講演、たいまつ行列、傘焼き
御祈願など

※下中座の『曾我物語』は16時から「ふれあいの郷」で開演予定です。

※開会式は、その他の催しは10時から「梅の里センター」で開演予定です。

3月3日現在、その他の詳細は未定です。決定次第ホームページなどでお知らせいたします。小さな会場ですので、間近でご覧いただけるものと存じます。

お問い合わせ

傘焼きまつり実行委員会

090・7633・0773

(久保寺)

090・2465・1274

(佐宗)



相模人形芝居 下中座だより

令和6年 新緑号(通算第6号)
令和6年4月1日発行

発行・編集人：林 美禰子(下中座 座長)
連絡先：0465-44-4573
ホームページ <http://www.shimonaka-za.jp>
メールアドレス newsletter@shimonaka-za.jp
デザイン：上條 祐嗣

編集・後記

このところ身近な人たちにコロナやインフルエンザにかかっている人が複数いて、振り回されました。まだまだ油断できませんね。皆様もくれぐれもお気を付けてください。(h)

何事も長続きしない私が下中座の座員として二十七年間続けてくることが出来たのは人形に掛ける皆さんの熱意、舞台をともに作る喜び、そして居心地の良い下中座があったからだと思います。今は座員になった孫と二階に座に通うことがとても嬉しいです。(k)

最近ストレッチが重要なことに気が付きました。ストレッチをすると身体を動かすパフォーマンスが速い、疲れも軽減します。今後も思い描く演技のために、健康維持と体力作りを少しずつでも続けていきたいなと思います。(n)

昨年の12月から今年の2月まで総合学習の一環で小学生たちに人形を教えました。子供たちの純粋に人形を愛しむ姿や、全力でお芝居を作る姿はプロ顔負けだなと思いましたが、本番でちゃんと緊張してない姿は「やっぱり小学生なんだな」と感じました。(o)

先日、前羽小学校の地域学習の一環で授業に混ぜていただきました。事前学習で学んだことをしっかりと覚えていて、人形に触つて実際に気になったことなど、たくさん興味を持って質問をしてもらいました！下中座だけでなく、人形浄瑠璃全体に興味を持っていただけて嬉しい限りです。(p)

取材担当として初めてお邪魔しました。また、もしかしたらどこかでお会いしましょう。ありがとうございました。(q)